

施策項目 1-2 これからの時代に求められる資質・能力の育成（高校）

[評価結果]

[担当課: 高校教育課]



担当課HP

総合評価	進展あり
-------------	-------------

定量評価 [指標]	C
-----------	---

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	0	0	1	1
	d 評価となった指標	①			

定性評価 [施策]	進展あり
------------------	-------------

「S-TEAM教育推進事業」において、全ての教科で授業研究セミナー・授業改善セミナーを開催し、大学等と連携しながら学習指導案の検討や研究授業、研究協議、教科指導力の高い教員による実践発表等を行い、「探究的な学び」を通じて資質・能力を育成する授業への授業改善が進んだ。また、昨年度から実施している、全ての道立高校の全ての教科の担当教員を対象とした各教科等教育課程研究協議会において、各教科における学習指導の改善・充実に向け進展が図られた。さらに各学校で教科等横断的に取り組んだ探究活動の成果発表会を各地域及び全道規模で開催し、その成果を全ての公立高校に周知するなどして、各学校における「主体的・対話的で深い学び」を推進するなど、施策の進展が認められる。

[施策の推進状況]

[P]・・・「Plan 令和4年度の主な施策」 [D]・・・「Do 主な取組の状況」
 [C]・・・「Check 施策の課題」 [A]・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	<p>(1) 社会との連携・協働による教育課程の実現 ・大きな社会変動の中、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手を育成するための教科等横断的な教育課程の編成・実施が必要</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進 ・学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続ける人材を育成することが必要</p> <p>(3) 高大接続改革への対応 ・高大接続改革で重視する学力の3要素を踏まえ、「基礎的な知識および技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」、「多様性・協働性の重視」を意識した授業改善を図るための教員の資質・能力の向上</p>
----------------	--

(1) 社会との連携・協働による教育課程の実現	
<p>[P] 次年度へ</p> <p>① 学校教育指導訪問の実施 ② 教科指導訪問の実施 ③ 北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会の実施 ④ 北海道高等学校教育課程研究協議会の実施 ⑤ 「高等学校教育課程編成・実施の手引」の作成 ⑥ 「S-TEAM教育推進事業」における「社会との共創」推進プロジェクトの実施（R4～R6）</p>	<p>[D]</p> <p>① 学校運営に係る学校教育指導訪問の実施（5月～7月） ② 授業改善に係る教科指導訪問の実施（9月～12月） ③ 探究的な学習や評価の充実をテーマとした北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会の実施（10月31日～11月17日、17教科等、2796名参加） ④ 各学校の教育課程の改善・充実を目指した北海道高等学校教育課程研究協議会の実施（全道4ブロック開催、道央92名、道南58名、道北69名、道東68名、合計287名参加） ⑤ 「手引」の作成（7～10月、道教委Webページに掲載し上記②・③・④で活用） ⑥ 地域課題解決型、アントレプレナー教育型、科学技術活用型の探究活動の成果発表会をオンラインで実施（1月、28校168名参加）</p>
<p>[A]</p> <p>①・②・③・④・⑤ 研究協議に係るワークシートをもとにして、観点別学習状況の評価の実施状況の把握、優良事例を蓄積し、全道の高等学校での活用を促進 ⑥ プロジェクトの実施類型を新たに創設し、自治体や企業、大学など地域や社会と関わって探究活動に取り組み、成果を広く発信する機会の拡充</p>	<p>[C]</p> <p>①・②・③・④・⑤ 各学校における学習評価への理解については、学校訪問等での協議の内容から、不十分である状況が見られることから、具体的な実践例を交えながら、生徒が身に付けた資質・能力を、観点別に適切に見取り、評価を行うとともに、指導と評価の一体化について、より一層充実させることが必要 ⑥ 参加する学校に限られていることから、自治体や企業、大学等と連携しながら探究活動に取り組む生徒の裾野を広げることが必要</p>
(2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進	
<p>[P] 次年度へ</p> <p>① 「S-TEAM教育推進事業」における「STEAM」推進プロジェクトの実施（R4～R6） ② 教科指導訪問の実施</p>	<p>[D]</p> <p>① ・大学等と連携した事前検討会を取り入れた授業研究セミナーの実施【実施教科】国語、数学、地理歴史、公民、理科、外国語（英語）（20会場で実施、493名参加） ・優れた教科指導力を有する教員による実践発表等を取り入れた授業改善セミナーの実施【実施教科】情報、家庭、芸術（音楽）、保健体育（9会場で実施、172名参加） ② 授業改善に係る教科指導訪問の実施（9月～12月）</p>
<p>[A]</p> <p>①・② 教科における「探究的な学び」や「ICTの効果的な活用」をテーマとした授業改善セミナーの内容を全道に展開</p>	<p>[C]</p> <p>①・② セミナー参加者の3か月後アンケート（回答104人）によると、「探究的な学び」を通じて資質・能力を育成する授業に取り組んでいる教員が74%、残りの26%の教員は今後取り組むと回答。95.2%の教員が、セミナーの内容が授業改善に役立ったと回答していることから一定の成果が見られたが、セミナーの内容を「校内で共有した」と回答した教員は65%にとどまっており、セミナーの内容の更なる普及を図ることが必要。</p>

(3) 高大接続改革への対応	
<p>①「S-TEAM教育推進事業」における「探究」チャレンジプロジェクトの実施（R4～R6）</p> <p>②「総合的な探究の時間」の実践研修の実施</p>	<p>①各地域（10ブロック）における教科等横断的な視点を踏まえた探究活動の成果発表会「探究チャレンジ・北海道」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域（10ブロック）における探究活動の成果発表会をオンラインで実施（12月～1月、196校675名参加） ・上記の代表校等による全道規模の探究活動の成果発表会を札幌市内で開催（3月11日北海道大学学術交流会館、25校84名参加） <p>②「総合的な探究の時間」の実践研修の実施（後志、留萌、宗谷、オホーツク、十勝の5管内で実施、60校74名参加）</p>
<p>①・各学校において探究活動を充実させるための外部講師の招へいを支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域及び全道規模での探究活動の成果発表会の開催 <p>②各地域における探究活動の成果発表会や全道規模の成果発表会の好事例を活用した研修の実施</p>	<p>①・各学校の「探究的な探究の時間」の取組状況に差が見られることから、各学校において、外部機関や専門家等と連携するなどして、探究活動のより一層の充実を図ることが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から9割以上の生徒が資質・能力の向上を実感したことから、引き続き生徒が探究活動の成果を発表・交流する中で、新たな疑問や興味・関心をもち、探究のプロセスを繰り返すことを経験させることが必要 <p>②外部人材の活用等、指導体制に課題が見られることから、各学校が「総合的な探究の時間」の改善の方向性について、具体的にイメージできるよう、研修内容の充実を図ることが必要</p>

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施 主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象
		実績値（下段）											
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)						
①「家庭学習を一度もしない週があったか」という質問に対して、「あった」と回答した高校1年生の割合(%)	(H28) 63.4	63.9	64.8	—	60.9	60.5	59.2	40.8%	d	北海道高等学校学習状況等調査	道教委	R5.2～ R5.3	公立高等学校(第1学年)
②「今年度受けた授業では、先生から示される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」という設問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した高校1年生の割合(%)	(H29) 68.7	68.7	73.4	—	72.7	77.7	80.5	80.5%	c	北海道高等学校学習状況等調査	道教委	R5.2～ R5.3	公立高等学校(第1学年)
③北海道高等学校学力向上実践事業における学カテリストにおいて、前年度の結果に基づき学校が最も課題と考えている領域等(自校の正答率が全道正答率より10ポイント以上低いなど)の正答率が上昇した学校の割合(%)	(H29) 64.8	64.8	78.8	—	—	75.3	—	—	—	北海道教育推進計画の目標指標設定にかかる調査	道教委	学習指導要領の改訂により、前年度との比較が困難であることから、数値未記入	公立高等学校(第1学年)
評価結果	(a) 0	(b) 0	(c) 1	(d) 1	定量評価		C						
新型コロナウイルス感染症の影響により実績値が伸びなかった指標又は低下した指標に対する今後の取組													
d評価に対する今後の取組	①全道代表高等学校長研究協議会において調査結果を示し、各学校における取組の一層の充実について指導・助言												